

講義名	日本語資格試験講座Ⅱ【留学生科目】		
科目区分	留学生科目		
担当教員	野村 由香里		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限	授業形態	
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメント/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング/2014年度 サービス産業学部		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>
日本語能力試験N1の合格を目指し。文法を中心に授業を行う。まず文法の意味と接続の形を様々な例文を挙げながら理解をする。また、学習した文法項目が日常でもつかえるように、例文作り等も行う。

<b>到達目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>N1に合格できる文法力を身につける</li> <li>学習した文法項目を実際にも読んで、聞いたりした時に分かるようになる</li> <li>既習の文法を使い、例文を作ることができるようになる</li> </ol>

<b>提出課題</b>
授業中に指示

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>
授業中に個別に指示

<b>評価の基準</b>
中間試験（50%） 期末試験（50%）

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>出欠確認は毎回点呼を行う</li> <li>5回以上欠席した場合は期末試験を受けることができない</li> <li>授業が始まって15分以内の入室は遅刻とみなし、遅刻3回で1回の欠席となる</li> <li>15分以上の遅刻は欠席とみなす（授業は受けてもよい）</li> <li>授業時には辞書を携帯すること</li> </ol>

<b>教科書</b>
. 使用しない。

<b>プリント資料及び参考文献</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>『くらべてわかる日本語表現文型辞典』大阪YWC A Jリサーチ 2009 ISBN978-4-901429-72-6</li> <li>『スーパ-合格日本語能力試験N1文法対策標準テキスト』行田悦子他著 秀和システム 201 ISBN 978-4-7980-2564-3 C0081</li> <li>『日本語文型辞典』グループ・ジャマシイ くらしお出版 1998 ISBN 4-87424-154-9</li> </ol>

<b>授業計画</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>授業内容や評価方法の説明/N1文法のチェック</li> <li>「同時に・すぐに」という意味を表す機能語①</li> <li>「同時に・すぐに」という意味を表す機能語②</li> <li>「同時に・すぐに」という意味を表す機能語③</li> <li>「理由・逆説・仮定」という意味を表す機能語①</li> <li>「理由・逆説・仮定」という意味を表す機能語②</li> <li>「理由・逆説・仮定」という意味を表す機能語③</li> <li>中間期理解度試験の実施とその解説</li> <li>「目的や驚きの表現」という意味を表す機能語①</li> <li>「目的や驚きの表現」という意味を表す機能語②</li> <li>「目的や驚きの表現」という意味を表す機能語③</li> <li>「程度ととりたて」という意味を表す機能語①</li> <li>「程度ととりたて」という意味を表す機能語②</li> <li>「程度ととりたて」という意味を表す機能語③</li> <li>総復習及び期末定期試験の傾向と対策</li> </ol>

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>
<input type="checkbox"/> A：PBL（課題解決型学習）
<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション
<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>授業前には学習する新しい機能語に目を通しておくこと</li> <li>授業後、学習した機能語の意味と接続の形を理解、定着させるために、実際の問題を何度も解いてみる</li> <li>既習の機能語が日常どんな場面で使われているかに注意し、積極的に使用すること</li> </ol> <p>以上、1時間程度。</p>

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>

<b>実務経験の有無及び活用</b>

<b>備考</b>